



🍷 総会報告 🍷

第7回 通常総会

2018年5月19日、松本記念音楽迎賓館にて第7回通常総会が行われました。

2017年度の活動報告、2018年度の予算案・事業計画等の各議案が審議され、それぞれ承認されました。

今後も久保田慶一会長のもと、チェンバロとその音楽の普及と発展のため、運営委員を中心に新規事業を含む様々な活動を行ってまいります。

協会の活動充実のため、今後とも会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2018年度 運営委員

会長：久保田慶一 副会長：栞形亜樹子

運営委員：石川陽子・加久間朋子・金澤和子・鴨川華子・重岡麻衣・寺村朋子・戸本和子・土居瑞穂・中田聖子
流尾真衣・林則子・平野智美・平山絢子・福間彩・山名朋子・山本庸子・渡邊温子・渡邊順生



例会について会長よりお知らせ

日本チェンバロ協会会員・サポーターの皆様へ

平素、日本チェンバロ協会の活動にご支援・ご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、平成30年度より当分の期間、当協会が開催いたします例会の参加費につきましては、会員は「無料」、サポーターの方は「割引料金」とさせていただきます。奮ってご参加ください。

なお、例会以外のイベントやレッスンを含む例会等につきましては、従来通り、会員ならびにサポーターの方には、「割引料金」を適用させていただきます。

また例会は年度ごとに5回を「定例会」とし、そのうち、少なくとも1回は東京以外の場所で開催させていただきます。随時、開催いたします例会は「臨時例会」とさせていただきます。

会長 久保田慶一



事務局より

事務局：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com

- ・メールアドレスや住所変更のご連絡、年会費のお支払い状況に関するお問い合わせは、事務局までお願いいたします。
- ・最新のメールマガジン（第84号）が届いていない方は、ご連絡ください。
- ・協会員名簿のホームページ掲載は、諸事情により取り止めました。
- ・協会の運営に携わってくださる方を募集しております！詳細は、事務局へお気軽にお問い合わせください。

チェンバロの日！2018

2018年5月19日と20日の両日、東京・世田谷区にあります「松本記念音楽迎賓館」におきまして、第7回となります「チェンバロの日！2018」を開催しました。天候にも恵まれ、140名近い方にご参加いただきました。

今年はフランスのクラヴサン音楽の巨匠、フランソワ・クーブランの生誕350年記念にあたることから、全体のテーマはクーブランを中心としたフランス音楽にしました。演奏会3つ、講演3つ、その他、リレーコンサート、恒例の「パーパークラフトのミニチュア・チェンバロを作ろう」など、多彩なプログラムとなりました。

* 第1日 *

リュート奏者として著名な水戸茂雄氏が、【クラヴサンへの影響 ～リュートによるノン・ムジュレとスティル・ブリゼ～】と題して講演をしてくださいました。氏はリュートを演奏しながら、豊富な譜例を用い、「スティル・ブリゼ」と「ノン・ムジュレ」について、とりわけバロックリュート特有の奏法やタブラチュアに書かれた記号を中心に解説していただきました。講演では、リュートから影響を受けたクラヴサン作品を演奏する際に、心がけるべきことを示唆されましたが、「縦ではなく横の流れで、多声部で捉える」という点を、氏が繰り返し強調されたのが、印象的でした。



続いて、チェンバリストとして、幅広く活躍されておられる有田千代子氏が、【フランソワ・クーブランの美】と題して、クーブランの作品を演奏してくださいました。プログラムは、《クラヴサン奏法》より2曲の〈プレリュード〉と、《クラヴサン曲集第1巻》から〈第5オルドル〉、《クラヴサン曲集第4巻》からの〈第21オルドル〉でした。半音階の微かな音の変化が複雑に混じり合い、あたかも一滴のしずくが水面にいくえもの波紋を重ねるようなクーブランならではの薫り立つような世界に、会場全体が包まれました。



その後に、同じくチェンバリストの石川陽子氏による【J.S.バッハに見る、フランス様式の世界】の演奏が続き、クーブランの作品の他、J.C.F.フィッシャーの〈パッサカリア〉、G.ベームの《組曲へ短調》、そしてバッハの《パルティータ第4番》が披露されました。美しい音でしっとりとはじまったクーブランのプレリュードから迫力のあるバッハまで、フランス様式というひとつの流れの中に、変化に富んだ音楽を楽しむことができました。



この他、会場では、来場者試奏タイムが設けられ、約20名の参加者が順々に演奏し、誰からともなく拍手が起き、発表会さながらの90分でした。どなたも日ごろ弾く機会の少ない二段楽器に触れ、チェンバロを心から楽しんでおられる様子でした。また、リレーコンサートではクーブランのクラヴサン曲集の全曲演奏、「クイズ・チェンバロン!」、CD/楽譜等の販売、チェンバロ・カフェなど、さまざまな催しが繰り広げられました。



* 第2日 *

午前から来場者試奏タイム、CD／楽譜等の販売、チェンバロ・カフェ、リレーコンサートが前日同様に開催されました。



午後からは、音楽思想家として著名な小穴晶子氏が、【表題付き描写音楽の思想的背景を探る～美学思想史の観点から～】と題して、講演してくださいました。画家、思想家の言葉や絵画を使用し、クーブランの表題音楽に迫り、美学、思想、音楽、そして、人類が発展してきた過程を見るかのような、壮大で奥深い内容でした。「遊ぶことはとても大切なこと。子どもたちは真似をすることで遊び始め、また遊ぶことによって好奇心や探究心が発展していく…芸術家の方は、いつまでも子どもの心を忘れないでほしい。」小穴氏の言葉が深く心の奥に響き渡る一時間でした。



続いて、チェンバリストの小川園加氏により、【オールドに描かれた女性たち～ダジャングルとフランソワ・クーブランの作品より～】と題して、クーブランのオールドの中から、女性にまつわる曲が次々と演奏されました。小川氏の巧みな演奏表現や音の表情によって、私たちは登場人物や曲に描かれた状況を思い浮かべ続けました。クーブランの描いた肖像画を見て回ったような、素敵な演奏会でした。



そして最後は、音楽学者の関根敏子氏による【クーブラン時代のパリの地図から迫る音楽事情】と題する講演でした。モニター画面には、パリの現代地図と古地図、風景版画や最近の写真が映しだされ、クーブランや当時の音楽家たちがどこに住んで、どこへ引越し、どこで活動したのか、音楽活動の盛んな地域はどう変遷したのかなどについて、お話いただきました。時空を超えたパリの街の音楽ツアーに参加しているかのようなようでした。



2日間にわたって開催された【クイズ・チェンバロン!】は、愛らしいキャラクター、チェンバロ先生とブレクト・ラムちゃんのご案内する、<チェンバロの日!>限定クイズコーナーです。楽器・作曲家・楽譜など、様々な角度から問題が出され、ちょっとした豆知識も織り込まれていて、チェンバロって何…?という方からプロのチェンバロ奏者まで、皆さんすっかり夢中になられている様子でした。次々と現れる不思議な映像や音楽に惑わされ、珍問難問に翻弄される方が続出?!でしたが、笑い声の絶えない和やかな雰囲気、あつという間の楽しい20分でした。当日流れたクイズ番組は、初級者編・上級者編とも、協会公式YouTubeチャンネルで配信中ですので、ご覧になって、ぜひ珍問難問にチャレンジしてみてください。

初級者編：<https://youtu.be/JFlzQooJTmM>

上級者編：<https://youtu.be/SONtT-HN2Uc>



2日目の午後に行われた【ペーパークラフトのミニチュア・チェンバロを作ろう】は、今年も多くの親子で賑わいました。久保田チェンバロ工房のスタッフによると、作製後しばらく保管しておいたミニチュア・チェンバロには不思議なことに、本物の楽器と同じ箇所に、同じような経年変化の曲がり等が現れるそうです。子どもたちは先入観にとらわれないひらめきで、カラフルなミニチュア・チェンバロを次々と作り上げ、大人たちは童心にかえって無心に工作を楽しむひととき。ゆったりとした時間が流れるこの場所で、世界でひとつだけ、自分だけのチェンバロが、たくさん生まれました。



【リレーコンサート】では、クーブラン《クラヴサン曲集》（全曲）を、エントリーされた方38人とスタッフ13人が力を合わせて、全220タイトルを弾き切りました。小さいお子さんから、ご年配の方まで、愛好家の方から、専門で勉強なさっている方まで、様々な方がクーブランを、そしてチェンバロを愛している姿を拝見し、胸が熱くなりました。聴いてくださるお客様も途切れることがなく、お部屋が満杯になることもしばしばでした。みんなで成功に導いたこのリレーコンサート、きっと、天国のクーブランもほほえみながら聴いてくれたことと思います。皆さま、本当にありがとうございました。

リレーコンサートに参加されたお二人のご感想を、以下にご紹介しておきましょう。

「クーブラン生誕 350 年という記念すべき年に、趣ある会場にてアマチュアながら全曲演奏の一員として参加させてもらうことができ、とても嬉しかったです。弾くときは少し緊張しましたが、いろいろな方のクーブランへの思いが詰まった演奏を聴くのはステキな時間でした。いただいた可愛い記念品も気に入っております！！

「私は、1つのオルドルから何曲かをまとめて弾きましたが、1曲だけを取り出して弾くよりも、そのオルドル全体の持つ意味や特徴がよく分かり、勉強になりました。今まで聴く機会がなかった曲を他の方の演奏で聴けたことも楽しかったです。」



リレーコンサート出演の記念品



爽やかな5月の光が差しこんだレセプションルームは、恒例となった『チェンバロ・カフェ』から立ち昇る、挽きたての芳醇なコーヒーの香りで満たされた安らぎの空間でした。そこかしこに当代きってのチェンバロ奏者、研究者、そして愛好家、夢にあふれた若者の、垣根を越えた歓談の輪ができ、また、アカデミア・ミュージックによる楽譜販売、ユニバーサル株式会社による古楽CD販売、日本チェンバロ協会によるCD、書籍、グッズ販売も行われました。1日目の催し後には懇親会が行われ、今年も茗荷谷のイタリアンレストラン「インボスコ」のオーナーシェフによる美味しい料理の数々が並び、舌鼓をうつ中、出演者の方々から「チェンバロを愛するものの集まれる得難い機会である」、松本記念音楽迎賓館館長の横田堯氏から「これからも応援を惜しまない」、久保田彰氏から「永遠に懇親会総監督を続ける」などの言葉をいただき、今後も「チェンバロの日！」が皆様に愛され、貴重な機会として続いていくことを確信しました。



なお、本文は2日間のイベントに参加された協会の方々のレポートを編集させていただきました。レポートを執筆していただきました諸氏に、感謝します。

(久保田慶一)



来年の「チェンバロの日！2019」は、

5月11日(土)、12日(日)

松本記念音楽迎賓館

どうぞお楽しみに！

例会報告

第 33 回例会（2018 年度第 1 回例会）

【バッハ平均律の分析と解釈 ～ ピアノでの演奏法も含めて ～】

2018. 7. 3. Studio 26 (札幌市中央区)

本年度第 1 回例会は札幌の潇洒な館で行われました。雨模様でしたが、庭の緑を眺めながらの良い雰囲気でした。

今回の協力ピアニストは、会場のオーナーでもある影山裕子さんです。

札幌での開催は 2 年ぶりになります。今回はピアノでも演奏される機会の多い J.S.バッハの《平均律クラヴィーア曲集》をテーマに、チェンバロとピアノで弾き比べを行い、互いの楽器の特徴とその違いを知って、演奏に結びつけようという試みです。

ピアニストとして活発な演奏活動をなさっている影山さん、田島ゆみさんからはツボを心得た質問がたくさん出され、聴講の方々からも積極的に意見や感想を出していただき、和やかな雰囲気の内にも稽古場のような良い緊張感のある会となりました。

ピアノや一般の聴衆の方々と共に学ぶことは、チェンバロ奏者、古楽に携わる者にとって有意義な機会だと強く感じました。

影山さんより、以下のご感想をいただきました。

「今回の講座は、普段なかなか触れる機会のないチェンバロに身近に接する貴重な場となりました。チェンバロが搬入され、ピアノの横に並べて置かれた姿に早くも期待が高まりました。

例会では、まず講師によるチェンバロについての説明があり、続いて当時の調律法、バッハの平均律が登場する以前の音律や、調についてなど興味深い話が披露されました。バッハのこの曲集がいかに革新的であったかということ、実際にすべての長短 24 の調で作曲を敢行したことの大胆不敵さ、それがいかに常識を超えたものであったのかということ語っていただけだったので、改めてバ

ッハの偉業に敬意を抱き、バッハの知的探究心に触れ、畏敬の思いを深くしました。

現在では、ピアノの道を志すものは避けて通れない教材という面が意識される曲集ですが、講師の話聞き、第一巻がそれぞれの調性で調の持つ性格を意識して書かれ、それぞれがすでに芸術作品であることなど、その素晴らしさを改めて意識させられた、とても有意義な時間となりました。

講師によるチェンバロ演奏の後、ピアノで同じ曲（第 1 巻二短調）を演奏しました。強弱が出せないチェンバロという印象があったのですが、講師による演奏は、厳密には強弱の違いではないのですが、表現に幅があり、非常に緊張感のある魅力溢れる演奏でした。現代ピアノでの演奏の後、チェンバロでも同じ曲を弾かせていただきましたが、現代ピアノを演奏する感覚で弾くと途端に表情に乏しい音楽になってしまいました。ピアニストは音楽表現をかなりの部分、指に頼っているのだと実感しました。ピアノと同じコントロールに頼れないチェンバロを弾く際には、アインザッツからかなり早めに意識と覚悟を持ってフレーズを弾き始めないといけないと感じました。ピアニストが比較的容易に音量の幅で表現する部分を、チェンバリストは絶妙な打鍵スピードの調整やタイミングによってコントロールしているように感じました。非常に興味深い体験となりました。

会場で聞いていた方々も、その違いに興味を持ってくださり、活発な意見交換もあり、大変有意義な時間となりました。今後もピアノとチェンバロを並べた機会を重ねてほしい、という意見をたくさん寄せていただきました。バッハの平均律についてもっと学んでいきたい、また、チェンバロを知ること現代ピアノの特性を明らかにしていきたい、という次回以降への希望を持ちました。」
(森洋子/講師)



第 35 回例会 (2018 年度第 3 回例会)

【日本のチェンバロの歴史は関西から始まった！～昭和初期我国でのチェンバロブームを検証する～】

【日時】 10月6日(土) 15:00-17:00 (開場 14:30)

【会場】 テアトルラモー (神戸)

【講師】 梅岡俊彦

【参加費】 会員・学生会員：無料、 サポーター：1,000 円、 一般：2,000 円、 学生：1,000 円

【定員】 60 名 [要予約]

* 第 35 回例会の例会報告は、春の会報に掲載予定です。



これからの例会

お問い合わせ、お申し込みは例会係まで！

メール cembalo_events@yahoo.co.jp、または、協会ホームページの申し込みフォームをご利用ください。

第 34 回例会 (2018 年度第 2 回例会)

「通奏低音講座 初級・実践編 ～コレッリの通奏低音を弾いてみよう～」

【日時】 10月28日(日) 14:30-16:30 (開場 14:00)

【会場】 スタジオ・ピオティータ (東京)

【講師】 野澤知子、ゲスト 高橋奈緒 (バロック・ヴァイオリン奏者)

【参加費】 [聴講のみ] 会員・学生会員：無料、 サポーター：1,000 円、 一般：3,000 円、 学生：1,000 円

[聴講+ミニ公開レッスン受講]

会員・学生会員：1,000 円、 サポーター：2,000 円、 一般：4,000 円、 学生：2,000 円

【定員】 25 名 (聴講 21 名・受講 4 名) [要予約]

* 受講枠は定員に達したため締め切りました。聴講生募集中です。

第 36 回例会 (2018 年度第 4 回例会)

「ガイド・ダレッツォ『ミクロログス』を読み解く」

～音の読み方、楽譜の書き方…中世の"楽典"はどう教えられていたのか？～

【日時】 11月18日(日) 12:30-16:00 (開場 12:00)

【会場】 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 404 号室

【講師】 宮崎晴代

【参加費】 会員・学生会員：無料、 サポーター：1,000 円、 一般：3,000 円、 学生：1,000 円

【定員】 35 名 [要予約]

第 37 回例会 (2018 年度第 5 回例会)

フリーコンサート

【日時】 2019 年 2 月 3 日(日) 時間未定

【会場】 松本記念音楽迎賓館

* 例会の企画案を随時募集中！

協会ホームページの「お問い合わせ」→「例会について ご予約・お問い合わせ」をご参照ください。

🎵 子ども夢基金助成活動による 「子どものためのチェンバロ体験講座」 🎵

「子ども夢基金」は独立行政法人国立青少年教育振興機構が実施する基金で、子どもの体験活動を促すための助成金です。

昨年度日本チェンバロ協会では、今年度の「子どものためのチェンバロ体験講座」を申請し、受理されました。計画では7月28日と29日の両日、杉並区下高井戸にあるスタジオ・ピオティータで実施する予定でしたが、関東地方に台風が接近したために、初日は中止になりました。2日目は台風一過の晴天に恵まれ、厳しい暑さにも関わらず、17名の子どもたちが参加してくれました。山本庸子さんと福間彩さん、そして土居瑞穂さんのご協力で、

子どもたちは有意義な体験をしてくれました。チェンバロ演奏はもとより、チェンバロの楽器の説明や音の出る仕組みを、パワーポイントを使って、わかりやすく説明してくださり、子どもたちもチェンバロの音楽の世界の魅力を堪能してくれました。

今後はこうした基金を活用して、広く子どもたちにチェンバロ音楽の魅力を伝えていってほしいと思います。協会としてもイベントの運営や宣伝の協力、申請書の作成の手ほどきなどのサポートをしていますので、ご興味のある方は、ぜひお問い合わせください。

(久保田慶一)



🎵 会計より

< 更新手続き / 諸変更について >

- * お申し出がない限り毎年自動継続となり、更新手続き（会費納入）をお願いしています。
- * お振込みの確認後、新しい会員証を送付いたします。
- * 前年度分も未納の方は、あわせてお振込みください。年会費のお支払い状況に関しては事務局までお問い合わせください。
- * 例会やイベント会場でも更新手続きを受け付けております。どうぞご利用ください。

【年会費】 会員：6,000円（学生：3,000円） サポーター：3,000円 法人・団体会員：10,000円

* 協会ホームページ内「会員専用ページ」を閲覧するのに必要なパスワードは、毎年更新され、その年度の年会費をお振込みくださった方へ個別にお知らせしております。

* 住所やメールアドレス等の変更、会員区分の変更、また退会の際は事務局までご連絡下さい。

< 賛助金の募集 >

- * より良い協会活動の実現のため、随時、賛助金を受け付けております。
- * 下記口座へお振込みいただく際は、その旨事務局までお知らせくださるようお願いいたします。

【賛助金】 会員・学生会員・サポーター：一口3,000円～ 法人・団体会員：一口10,000円～

< 年会費・賛助金お振込み先 >

ゆうちょ銀行

名義：日本チェンバロ協会

記号：10090 番号：07246611

※ ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込みの場合

店名：〇〇八（ゼロゼロハチ） 店番：008

預金種目：普通預金 口座番号：07246611

* 振込用紙の送付は行っておりません。 * 振込手数料はご負担願います。



後援申請の手続きについて

* 対象：会員区分が「会員」の方

会員の方は、ご自身が出演される演奏会のチラシに「後援：日本チェンバロ協会」と入れることができます。後援名義使用をご希望の場合は、① チラシを作成（事前の申請は不要です）→ ② 演奏会までに、出来上がったチラシのデータ（後援を記載したチラシ）を、日本チェンバロ協会事務局メールアドレス宛にお送りください。

データ送信先：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com

※ メールの件名に「後援・チラシデータ」と明記してください。

メールでの送信が難しい場合は、チラシを1部、日本チェンバロ協会までご郵送ください。

郵送先：日本チェンバロ協会事務局 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目44-4 1階

- チラシを作成される前に、必ずご自身の年会費の納入状況をご確認ください。納入状況が不明な場合は、「年会費納入状況の確認」とタイトルを付け、お名前を明記の上、事務局にメールをお送りください。確認後ご連絡いたします。
- 年会費納入未納の方、滞納されている方、また滞納などの理由で会員の資格を失った方は後援をつけられません。規約に反した場合、規約に則り対処させていただきます。
- 後援記載は会員の方のみの特典です。サポーターの方は協会の後援を得ることはできません。サポーターの方が後援記載をご希望の場合は、会員区分を変更していただく必要があります。事務局までご相談ください。



日本チェンバロ協会
Japan Harpsichord Society

会報第11号 2018年10月10日発行 発行人：久保田慶一
編集：石川陽子、流尾真衣、山本庸子

日本チェンバロ協会事務局

住所：〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目44-4 1階
電話：080-9661-8196（火曜日10～17時に対応）
メール：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com
ホームページ：https://japanharpsichordsociety.jimdo.com